

キャラクター名 プレイヤー名

メインクラス	メイジ	Lv.1:		レベル	4
サポートクラス	セージ	Lv.1:	セージ	性別	女性
称号クラス				年齢	15歳
種族	ヒューリン			境遇	渡来
出自 (効果)	王侯貴族			目標	名誉

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	10	9	8	14	14	12	9
ボーナス	3	3	2	4	4	4	3
クラス修正	0	0	0	2	2	1	1
他修正							
能力値	3	3	2	6	6	5	4

HP	41
MP	63
フェイト	5

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手	マジックスタッフ	至近	-1	2	0	0	0	0	0
左手									
頭部	サークレット					2			
胴部	メイジローブ					3			
補助	護りの指輪				1	2	1		
装身具	知識の書								
能力値			3	0	2	0	5	8	8
スキル									
その他									
総計(右)			2	2					
総計(左)					3	7	6	8	8
総計(両)									m
ダイス数			2 d	2 d	2 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	6			6	+ 2 d
トラップ解除	3			3	+ 2 d
危険感知	6			6	+ 2 d
エネミー識別	6		5	11	+ 3 d
アイテム鑑定	6		5	11	+ 3 d
魔術判定	6		7	13	+ 4 d
呪歌判定					+ d
錬金術判定	3			3	+ d

所持品	
上等な衣服	MPポーション×2
冒険者セット	食事
バックパック	虹色の指輪
ポーションホルダー	
└ハイHPポーション	
└ハイMPポーション	
└ハイMPポーション	
└MPポーション	
└MPポーション	

現在重量: 9
 最大重量: 15
 所持金: 2696
 預金・借金:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
オールラウンド	★	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果: キャラ作成時に任意の3つの能力基本値+1								
エアリアルスラッシュ	1	6	メジャー	20m	単体	魔術	-	
効果: 対象に魔法攻撃を行う。その攻撃の魔術判定に+1D、ダメージは[2D+5](風属性魔法ダメージ)となる								
マジックブラスト	2	3	ムーブ	-	自身	自動成功	-	
効果: 「対象: 単体」の魔法攻撃を「対象: 範囲 (SL*2)」に変更する。								
エアリアルセイバー	4	-	パッシヴ	-	自身	-	-	
効果: 風属性の魔法攻撃のダメージに+[Lv*4]する								
リゼントメント	1	-	効果	-	自身	自動	1/シナ	
効果: 魔法攻撃と同時に使用。「対象: 単体※」に変更し、ダメージに+[CL*10]する								
フライト	1	4	メジャー	至近	単体	魔術	-	
効果: 対象を飛行状態にし、【移動力】に+[SL*5]mする								
コンセントレイション	1	-	パッシヴ	-	自身	-	-	
効果: 魔術判定に+1D								
エンサイクロペディア	1	-	セットアップ	-	自身	自動	-	
効果: エネミー識別を行う								
コンコーダンス	1	-	パッシヴ	-	自身	-	-	
効果: エネミー識別を「対象: 場面 (選択)」 「射程: 視界」で行える								
ハイウィズダム	2	-	パッシヴ	-	自身	-	-	
効果: 【知力】判定の達成値に+[SL*2]								
モンスターロア	1	-	パッシヴ	-	自身	-	-	
効果: エネミー識別の判定に+1D								
インテンション	1	-	パッシヴ	-	自身	-	-	
効果: 【最大MP】に+CLする								
アイデンティファイ	1	-	パッシヴ	-	自身	-	-	
効果: アイテム鑑定の判定に+1D								
ヒストリー	1	-	パッシヴ	-	自身	-	-	
効果: 様々な国や町の概要、歴史、人物などについて知っているかの知力判定に+1D								
エンチャントウェポン: 無	1	3	メジャー	-	単体	魔術	-	
効果: 対象が行う武器攻撃のダメージを〈無〉属性の魔法ダメージに変更する。シーン継続								

“古き王都”グランフェルデンに属するヒューリンの貴族令嬢。
 伯爵家の末娘として、物静かで感情を表に出すのが苦手な少女だが、その内に秘めた魔術の才は一族の中でも突出していた。

家族構成は両親のほか、優秀な兄と社交的な姉が一人ずつ。
 兄は既に家の実務を担い始め、次期当主として期待されている。
 姉はその美貌と人懐っこい性格から、有力侯爵家との婚約を結び、貴族社会でも一目置かれる存在だ。

一方でロザリーは、無表情で何を考えているか分からないと言われ、貴族社会での良縁には恵まれず。
 魔術においては頭角を現すも、両親の期待する“家の発展”に直結する方向性ではなかったため、あまり評価されることはなかった。

兄姉はそんな彼女を気遣い、優しい言葉をかけてくれる。
 だがその善意が、かえってロザリーには“自分だけが取り残されている”という劣等感を強く意識させてしまうのだった。

そんな折、彼女の元へ届いたアカデミアからの入学案内。
 それはまさに“渡りに船”とも言える機会だった。

「アカデミアで実績を立て、家の誇りとなることができれば、両親も自分を見直してくれるはず——」

淡い希望と、心の奥に広がる焦り。
 自分の居場所を証明するため、ロザリーはアカデミアの門を叩く。
 ……そして、胸の奥で芽生えつつあった昏い感情から、そっと目を逸らした。

